

「公共トイレハンドブック」が・・・

## 『第3回認知症とともに生きるまち大賞/特別賞』を受賞しました！！

これまで研究開発課が取り組んできた研究テーマ「公共トイレハンドブック」が、このたび『第3回認知症とともに生きるまち大賞/ニューウェーブ賞（特別賞）』を受賞しました。

■主 催：NHK 厚生文化事業団

■応募数：47点（本賞5点、ニューウェーブ賞（特別賞）2点）

＜表彰7作品の紹介＞ ⇒<https://www.npwo.or.jp/info/15350>



### 【担当者（西村 顕）からのコメント】

公共トイレにおける多機能トイレの拡充は認知症のある人たちの社会参加の促進につながり、本人や家族、支援者の負担は大きく軽減されるでしょう。

私たちの研究成果が、認知症に対する社会全体の理解を促し、多様性を認めあえる成熟した社会への一助となれば幸いです。

○受賞作品名称：公共トイレハンドブック

○受賞作品応募者：西村 顕 [社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団]  
野口 祐子 [日本工業大学教授]

○受賞作品概要：「トイレのカギを開けられなくなった」「水を流そうとして間違って非常ボタンを押してしまった」「トイレを出て行方不明になった」・・・など、外出時の認知症の人の困り事を解決するために、認知症の人や家族へのインタビューをもとに「公共トイレハンドブック」を作成。認知症の人にも使いやすい公共トイレを整備することで、認知症の人が外出しやすいまちづくりの一步とする取り組みが始まっている。

○受賞理由：認知症の方が外出するとき、思わぬバリアーがトイレかもしれません。この取り組みは、認知症の人や家族からの広範な聞き取り実施調査や視察などを重ねたアカデミアの分野からの提案で、認知症をめぐる環境整備に、福祉医療行政を加えて、こうした研究者が参加することの期待は大きく、今後さらに本人とともに研究とまちづくりが持続発展していくことが望めます。

### ＜認知症とともに生きるまち大賞とは・・・＞

NHK 厚生文化事業団では、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを行っている団体を表彰する「認知症とともに生きるまち大賞」を実施しています。

なお、昨年まで2回にわたって「認知症にやさしいまち大賞」として実施していましたが、今回から「共生社会」の実現に向けて、目的をより分かりやすくするため、名称を変更しました。